NEWS LETTER
2026..7
Vol. 15

名古屋小児がん基金

NAGOYA PEDIATRIC CANCER FUND

世界最高レベルの医療をすべての子どもたちに

みなさまの温かなお気持ちやご支援、いつもありがとうございます。

おかげさまで、名古屋小児がん基金の活動は 10 年目を迎えます。
（一般社団法人として 2016 年設立、2024 年特定非営利活動法人に移行）

10 月 18 日（日）午後　栄ガスビルホールにて、10 周年イベントを企画しております。（チラシを同封いたします）
設立時からずっと応援してくださっている矢野きよ実様に司会をしていただきます。

支えていただいているみなさまに、ぜひお会いして、この 10 年の歩みや現在の小児がん最先端医療の現状や課題などをお伝えし、参加者の方々と交流できることを願っています。
昨年、名古屋で、日本・韓国・台湾の小児がんサバイバーの若者たちが交流しました。その報告もします。

小児がんにかかわる活動をしている６つの団体の紹介も予定しております。
ぜひぜひ、10 月 18 日をご予定ください。

＜認定 NPO 法人 愛知こどもホスピスプロジェクト＞

病気や障がいのある子どもとそのご家族が過ごす第２のおうちで「今を存分に生きる」を目標に活動しています。

＜認定 NPO 法人 あいち骨髄バンクを支援する会＞

小児がん治療の骨髄移植に必要なドナー登録を呼びかけ続けて 20 年。多くの患者さんたちの命を支えています。

＜NPO 法人ぷくぷくばるーん＞

長期入院中の子ども達が、笑顔になれるひとときを提供します。

＜公益財団法人 ドナルド・マクドナルド・ハウス＞

名古屋大学病院敷地内にある、入院患者さんの付き添い家族の宿泊施設です
付き添い家族に寄り添っています。

＜NPO 法人　あいち小児がんの会＞

LEMONADE STAND

レモネードスタンドなどを通じて、小児がんを知ってもらう活動をしています。

＜小児がん ファミリー・ピアサポーター和楽＞

長期入院付中の子ども達や付き添い家族へ、さまざまな支援をしています。

高校生が病院の中で学ぶこと

名古屋小児がん基金理事
ジャーナリスト　　安藤明夫

長年小児がん取材から学んだことがたくさんあります。

名古屋大学付属病院に入院中の腎臓がん患者・伊藤義希さん（17）から、医療スタッフを通じて連絡をいただいたのは、2014 年秋のことだった。

伊藤さんは前年、県立高校のデザイン科に入学したが、病状は重く、入学式に出たきり一度も登校していなかった。中学生のころは院内学級で仲間たちと一緒に学べたが、高校生は対象外だった。高校生の長期入院患者は少数だし、授業科目が多いので、義務教育と同じように対応するのは難しかった。

感染予防のマスクを手放せない伊藤さんはベッドに身を起こし、思いを語ってくれた。「自分の問題じゃないんです。システムを作っておけば、これからぼくのように勉強したい高校生が出てきたときに役立つはず」と。

彼とは、前年にも別の取材で会っていたが、この１年ですごく大人びていた。でも、主治医からは「治る見通しはない」と告げられていた。

医療スタッフとも相談し、大村秀章・愛知県知事に陳情の手紙を書くことになった。

届いたのを見計らって知事に連絡を取ると「病気と闘っている子どもたちの勉強したい思いを、大人としてかなえてあげないといけないのではないか」と踏み込んだコメントをしてくれた。

社会面トップの記事になって、県教育委員会が急ピッチで動き、週三回、一回あたり二時間を上限に、希望科目を教員が指導する派遣制度が翌年春に設けられた。伊藤さんも数回、デザインの派遣授業を受けることができたが、この年の 11 月に旅立った。最期は、強い痛みの中で、家族への感謝のビデオメッセージを残し、鎮静剤で眠りに入った。

伊藤さんによって実現した派遣授業は、コロナ禍で大きな意味を持つことになった。

企業の在宅勤務がひろがる中、kuvi という遠隔会議のテレロボットを使って入院中の生徒が学校の授業に参加できる仕組みが開発された。愛知県では既に派遣授業があったため、上乗せする形でスムーズに導入できた。私の知り合いでも、長期に登校できなかった二人が、kubi を使って単位を取得し、卒業した。うち一人は、医学系の大学に進み、理学療法士を目指して勉学に励んでいる。留年か退学しか道がなかった子たちの未来が開かれたのだ。（ニュースレター6号・８号掲載）

小児がんの子は、私たちの知らない世界を知る子でもある。生と死について深く考えたり、家族や友達や医療者の支えのありがたさを実感したりと、濃密な日々を過ごしている。落ち込んだり、不安定になったりする場合もあるけれど、理解し応援してくれるスタッフがいれば、彼らは短期間で精神的に大人になり、自分が社会にできることを考えたりするのだ。

名古屋大学小児科は、子どもや家族が「乗り越えていく力」を応援する専門職チャイルド・ライフ・スペシャリストを 2007 年からいち早く配置し、多くの子たちの心を支えてきた。そうした先駆的な取り組みをたびたび書かせていただき、今は名古屋小児がん基金という団体の理事として、シンポのお手伝いなどをしている。

長く医療記者を続けたことで、闘病中の子ども達の強く優しい生きざまに触れることができて、感謝している。

理事・監事を紹介します　　その１

副理事長　大竹由美子

○名古屋小児がん基金の活動に関わりだしたきっかけは？

小児病棟で活動するNPO法人「ぷくぷくばるーん」を運営していたこともあり、小島先生から基金設立の相談を受けました。

息子の闘病経験から治療の進歩を期待していた一方、現実はそうそう簡単ではないと感じていたので、小島先生のビジョンに大きな可能性と感動を覚えたことがきっかけです。

○名古屋小児がん基金の活動に期待することは？

小児がんの治療がもっと進歩し、子どもたちが治療で苦しまなくてすむ未来を願っています。
いつか風邪のように治せる病気になる日が来ることを期待しています。

○普段はどんなことをされていますか？

社会活動をしたい方のためのコンサルやスクール、オンラインコミュニティの運営支援を仕事にしています。
趣味は、旅行とクラシックコンサート鑑賞。
お寿司とうなぎが大好きです。

監事　熊田登与子

○名古屋小児がん基金の活動に関わりだしたきっかけは？

もともと子どもにかかわる活動に参加していました。理事の小野万里子さんから、名古屋小児がん基金設立の話と監事に就任してほしいとのお話をいただきました。

○名古屋小児がん基金の活動に期待することは？

私は「医療はすべての子どもに平等でありたい」という言葉・精神が大好きです。
いつまでもこの精神を貫いていただきたいと思います。

○普段はどんなことをされていますか？

仕事は弁護士です。
趣味は読書と海外旅行ですが、今年は忙しくて封印です。国内の歴史的史跡と温泉のある街も好きです。
イタリア料理とワインがあれば幸せです。

監事　三品雅義

○名古屋小児がん基金の活動に関わりだしたきっかけは？

東海骨髄バンクの頃、たまたまドナーになったのがそもそものきっかけです。名古屋小児がん基金の設立時に監事として参加させていただき微力ながらお手伝いさせていただいています。

○名古屋小児がん基金の活動に期待することは？

一人でも多くの子ども達が元気になることが望みです。

○普段はどんなことをされていますか？

仕事は税理士です。
美術鑑賞・縄文時代の遺跡巡りにはまっています。イチジク・ビワ・岩ガキ・鰻・・食いしん坊なので、好きな食べ物はたくさんあります。

２０２５年度事業報告

（１）小児がんの新規治療法の開発と遺伝子診断費用の助成

名古屋大学・名古屋市立大学・中部大学に助成金を支援しました。
次世代シークエンサーでの遺伝子診断費用の助成も続けることができました。

（２）患者・患者家族への経済的支援
（３）アジアの発展途上国の小児がんにかかわる医療従事者の研修支援

イラク・ベトナム医師の研修支援をすることができました。

（４）その他

AYA 世代（小児がんサバイバーの若者たち）の日本・韓国・台湾の交流事業を名古屋にて開催し、報告書を作成しました。2026 年は、台湾で開催されます。

基盤事業として

名古屋小児がん基金の財政基盤を安定させ、支援を継続できるように、認定 NPO 法人をめざしています。

2025 年度は、延べ 923 件のご寄付をいただきました。マンスリーサポーターも 42 人に増えました。

2026 年度予算

	予算	備　考
収入		
会費	30,000	
受取寄付金	14,000,000	
前年度繰越金	25,826,406	特定目的積立金を含む
収入合計	39,856,406	

支出　事業費		
新規治療法開発支援事業	10,000,000	研究開発・遺伝子診断
患者および家族への経済的支援	300,000	保険適応外薬剤購入支援
発展途上国における小児がん患者のサポート事業	1.000,000	愛知県下での医師の研修支援
その他事業	1,600,000	シンポジウム
人件費	766,080	事務局
印刷製本費	2,000,000	ニュースレター・リーフレット
会議費	300,000	
旅費交通費	2,000,000	ボランティアスタッフ交通費・日韓台交流事業
通信運搬費	640,000	切手代・宅配便代・電話代
消耗品	400,000	事務用品
水光熱費	120,000	
賃貸料	917,111	事務所家賃
保険料	13,260	事務所火災保険
支払い手数料	250,0,00	
雑費	500,000	
特定目的積立金	19,002,000	新規治療法開発支援金
次年度繰越金	47,955	
合計	39,856,406	

名古屋小児がん基金
NAGOYA PEDIATRIC CANCER FUND

〒460-0012
名古屋市中区千代田 5-11-33
ST PLAZA TSURUMAI 本館４B
TEL・FAX :052-263-6995
Email: info@npcf.or.jp

送金先　〇郵便局
加入者名　名古屋小児がん基金
00820-9-153642

〇三菱 UFJ 銀行鶴舞支店（267）
口座名　特定非営利活法人
名古屋小児がん基金
口座番号　普通　0359380